



御蚕様を飼う年3回のうちで、もっとも上質の糸を紡ぐとされる「春蚕」の出荷が6月27日に無事終わりました。「今年は一斉にすがいなくてナン、それはきれいなおやとிட்டに」と意気揚々とお話ししてくださいました。出荷した量も約72キロと近年においては上々の出来でした。さて、夏蚕の開始は14日から。また忙しくなります。それまで田んぼのヒエ取り、畑の草むしりなどに一生懸命です。夏の季節に良く映える紙谷さんのダリアが畑の一角を彩るなか、新じゃがの収穫ができ

ました。紙谷さんのお宅は大河原で一番早く朝日を浴び、日照時間が長いのでよく「ほけた」おいしいジャガイモが取れるのです。下は紙谷さんの家の航空写真。桑畑と整然とした畑の畝が印象的



飯田下伊那7月の行事

- 17日 松川町 あらい商店街
あらいの祇園祭
- 24日、25日 第19回中央構造線サイクリング大会
- 24日 阿智村 深見
深見の祇園祭
- 31日 阿智村の夏まつり
- 31日 下条村 第12回
しもじょつ子まつり
- 31日 飯田市
水神橋納涼花火まつり

雨に濡れる紫陽花に、心いやされる半面、そろそろ梅雨明けが恋しい今日この頃。大鹿の人々はこの季節、こまめに働きま

す。雨が止むと畑に立ち、降りだすと「梅仕事」。収穫した梅の加工に余念がありま

飯田美術博物館では、夏の企画展「伊那谷の蝶蛾誌」～伊原道夫コレクション～が9月5日まで開催されています。イモムシの造形、色彩にはまっている前志満は昨年、自然の中で見つけた様々なイモムシちゃんを撮りためています。8日は丁度、企画展を記念した勉強会があり、正介さんと足を運んで参りました。蝶と蛾の違い、また伊那谷は日本全国で最も個体数が多いこと、戦前から蝶蛾の研究にとても熱心に取り組んでいる地域性など理解を深めることができました。生き物が活発に動くこの季節、複雑怪奇なイモムシと出会うと「大きくなったら何になるの?」という言葉をまるで保育園児にといかける如く片っ端から聞いてまわっている方にはぜひおススメしたい企画展です。

夏休みのご予定にぜひどうぞ。右のハンドブックも会場販売されています。イモムシと成虫の写真が記載され知的欲求を満たしてくれる一品です。



季節を彩る右馬允のお蔵の軒下。今年初お目見えは「麦」です。大鹿村では昭和30年代までは麦と大豆の2毛作が行われていたという事実にとり育てたものです。もちろん大豆も作っていますので今年はお自給率100%の味噌を仕込みます。お楽しみに



息子さん、楓くんファミリーです。中学生がそのまま大人になったようなビュアな印象を受けるご夫妻です。実際に

1300人をきった大鹿村の人口を支えているのが1ターンなどで移り住んでできた方々です。私の中学までの同級生が11人。村に籍を置くのは私のみとなった現在、ぞくぞくと故郷が異なる20代の若い世代がこの地域に多く住みはじめました。彼らは臨んでこの地に移り住んだだけあって地域の良さや、問題点を率直に捉えていると感じています。今回ご紹介するのは鹿嶋 中峰 で「まんまる農園」を経営されていらっしゃいます 中野比呂樹さん(24) 真希さん(28)

ご主人は、地元の方からも信頼度が高い寡黙で働き者、真希さんの素敵な笑顔からは人柄が伝わってきます。(私とは同世代) ご実家は東京は葛飾。看護学生時代は北海道で過ごし、病院勤務をへて25歳の時に大鹿の地にやってきました。現在、無農薬有機野菜の個人宅配事業のほか酵母の手作りパン、おやつ、保存食づくりや各種自然療法など大鹿村の環境を生かした生活スタイルを貫きながら、イベント、手づくり市などで出店、発信中です。大鹿村へは福井県のお寺で出会ったお坊さんの勧めで3年前「ウーファー」としてきたのがきっかけで、それまでは特に田舎暮らしには興味はなかったようです。その年の秋には同じ「ウーファー」として来村していたご主人と出会い、2年間大鹿村 大池の農場で働いているうちに田舎暮らしが性に合っているということに気付いたといひます。都心の生活で上手くいかなかった他者とのコミュニケーションも自然界のリズムの中で生活しているうちにだんだんと円滑になったといい、その後は、独立し結婚と同時に住む場所も決まって、楓くんも生まれ、とんとん拍子。現在、第2子を授かっています。さて、「ウーフ」(WWOOF)とは世界規模でネットワーク化されている組織で「食事、宿泊施設」と「力」を交換する場です。自分の持っているものをあげ、持っていないものをもらうというシンプルなシステムでその関係の間に「お金」は生じません。「ウーフ」に登録し利用する人を「ウーファー」、受け入れる側を「ホスト」と言ひます。現在、大鹿村では「ウーフのホスト」の下に多くの「旅のひと」が行き来しています。そういう方達が新しい価値観のもと定住し、これからの大鹿村の担い手になっていくことは確かです。

大鹿村特産ブルーベリー 注文お受けします



今年も大鹿のおいしいブルーベリーの出荷が始まっています。1キロからご注文受け付けています。生食はもちろんジャム、シャーベットなどお楽しみ頂けます。値段など、詳しくはお問い合わせください。(0265-39-2037)

～季節の大鹿弁～「ひのくれしまどき」

「お暑いナン」「ほんに お暑いナン。そいでもこうやって梅雨が明けると、明けんかのころはナンだに、夏日だ、夏日だのって言っても、日のくれしまどきになりや、いくら涼しくなってくれるで助かるナン」「ふんとな。これが梅雨が明けて1週間もお天気が続きや、地べたが熱を持ちまっつて、日のくれしまどころじゃない、晩になつたつて、暑くて、暑くて、おれんでナン」
「そうな。これからだんだん暑くなつてくんで、かなわんなあ」
「早いとこ秋になつてくれにや、年寄りはいライに・・・」「いくらなんだつて、そんねに早く秋が来ちまっつちや、そのぶん、御年取りだつて早くくるんだに。もうだいぶオジイなんだで、そんねん急がされてオジイオジイにされちやかなわんもの。急がせるのはせえぜえひのくれしまどきくらいに止めといてくれにやあ・・・」 ひのくれしまどき・・・「日没どき」、「日が暮れてゆく時間帯」をさして言つた大鹿弁です。より簡潔に「ひのくれしま」とも言ひます。